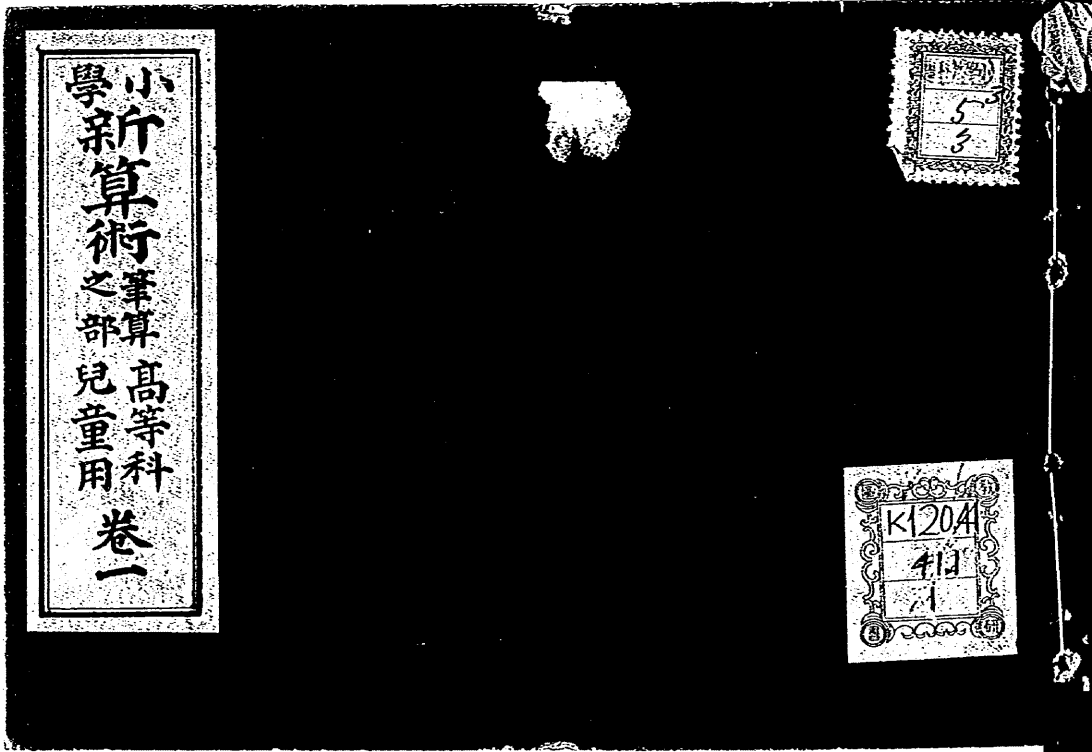


K120.41

41.1

1



小學新算術之部 兒童用 高等科 卷一

5  
8

K1204  
41  
1

文學社編輯所編纂

小學  
算術  
筆算之部

高等科兒童用

東京 文學社

小學新算術 之部 算術 高等科 兒童用 卷一

目次

第一章 運算上の注意

第一課 讀數法

一

第二課 用語

二

第三課 乘法の簡法

八

第四課 除法の簡法

十

第二章 檢算法

第一課 加法の檢算法

十三

第二課 減法の檢算法

十三

第三課 乘法の檢算法

十三

第四課 除法の檢算法

十四

第三章 加減乗除

第一課 雜題

十四

第四章 複名數

第一課 單名數及び複名數

二十

第二課 諸等數の意義	二十二
第三課 貨幣	二十三
第四課 容量	二十三
第五課 重量	二十四
第六課 尺度	二十五
第七課 里法	二十七
第八課 畝法	二十八
第九課 時法	二十九
第十課 諸等數の通法	三十一
第十一課 諸等數通法問題	三十六
第十二課 諸等數の命法	四十六
第十三課 諸等數命法問題	五十二
第十四課 諸等數加法	六十二
第十五課 諸等數加法問題	六十四
第十六課 諸等數減法	六十六
第十七課 諸等數減法問題	六十九
第十八課 諸等數乘法	七十

### 第五章 小數

第十九課 諸等數乘法問題	七十二
第二十課 諸等數除法	七十三
第二十一課 諸等數除法問題	七十五
第二十二課 諸等數加減乘除雜題	七十七

### 第六章 應用問題

第一課 小數の定義及び數名	八十
第二課 小數の記法及び讀法	八十一
第三課 小數加法規則	八十二
第四課 小數加法問題	八十三
第五課 小數減法規則	八十五
第六課 小數減法問題	八十五
第七課 小數乘法規則	八十六
第八課 小數乘法問題	八十七
第九課 小數除法規則	八十八
第十課 小數除法問題	八十九
第十一課 小數加減乘除雜題	九十

答之部

目次終

小算術 算高等科 兒童用 卷一

文學社編輯所編纂

第一章 運算上の注意

第一課 讀數法

數位表

一の位	十の位	百の位	千の位	萬の位	十萬の位	百萬の位	千萬の位	億の位	十億の位	百億の位	千億の位
5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3

兆の位 2  
十兆の位 1

右に記したる算用數字の數を讀めば、

十二兆三千四百五十六億七千八百九十一萬二千三百四十五なり。

左に掲げたる數を日本數字に書き換へよ。

- (1) 58980.                   (2) 64020.
- (3) 7600.                   (4) 28006.
- (5) 62050.                  (6) 90348.
- (7) 238275.               (8) 485279.
- (9) 606827.

### 第二課 用語

#### (一) 加法

(イ) 二つ以上の數につきて計算の仕方を示したるものを算式又は式といふ。

例へば、三と四とを加へ、又は五と六とを加ふるときに、 $(1)_{3+4}$ 、 $(2)_{5+6}$ とすることが如し。

(ロ) 「+」は、相加ふべきことを示す記號なり、これを加號といふ。

(ハ) 或る數と或る數との相均しきを示す記號「=」を均號といふ。

例へば、三は三に均し、又三は二を加へしものは、五に均し、或は四は二を加へしものは、五に一を加へしものに均しと云ふ場合などには、左の如く記するなり。

(一)  $3 = 3$  均號  
 (二)  $3 + 2 = 5$  均號  
 (三)  $4 + 2 = 5 + 1$  均號

(二) 加へて得たる數を和又は總數といふ。而して加ふべき數を加數と云ひ、加へらる、數を被加數と云ふ。

例

和又は總數  $7 = 3 + 4$   
 加數  $4$   
 被加數  $3$   
 又或は總數  $7 = 3 + 4$   
 加數  $4$   
 被加數  $3$   
 又或は總數  $7 = 3 + 4$   
 加數  $4$   
 被加數  $3$

(ホ) 加法定義

二數以上の數を合せて、一數となす法を加法といふ。

(二) 減法

- (イ) 二は、或る數より、或る他の數を取り去るべきことを示す記號なり、これを減號といふ。
- (ロ) 取り去るべき數を減數といふ。
- (ハ) 取り去らるべき數を被減數といふ。
- (ニ) 取り去りて残りたる數を、差又は殘數といふ。

例

差又は減數  $3 = 7 - 4$   
 減數  $4$   
 被減數  $7$   
 又或は殘數  $3 = 7 - 4$   
 減數  $4$   
 被減數  $7$

(ホ) 減法定義

大數より小數を取り去りて、其の殘數を求むる法を減法といふ。

(三) 乘法

ふ。

(イ) × は或る数を、或る他の数だけ倍すべきことを示す記號なり、これを乗號といふ。

(ロ) 倍すべき数を乗數といふ。

(ハ) 倍せらるべき数を被乗數といふ。

(ニ) 倍して得たる数を積又は乗積といふ。

例

$$\begin{array}{l}
 \text{(一)} \quad 21 \text{ 積又は乗積} \\
 \text{(二)} \quad 7 \times 3 = 21 \\
 \text{(三)} \quad 7 \times 3 = 21 \\
 \text{(三)} \quad 8 \times 4 = 32 \\
 \text{(三)} \quad 7 \times 3 = 21 \\
 \text{(三)} \quad 8 \times 4 = 32
 \end{array}$$

(ホ) 乗法定義

乘法は、加法の簡便なる仕方

(四) 除法

して、幾つかの同一の数を集めて、一數となす方法なり。

(イ) ÷ は、或る数を、或る他の数にて

除すべきことを示す記號なり、これを除號といふ。

(ロ) 除する数を除數といふ。

(ハ) 除せらるべき数を被除數といふ。

(ニ) 除して得たる数を商といふ。

例

$$\begin{array}{l}
 \text{(一)} \quad 12 \div 4 = 3 \\
 \text{(二)} \quad 12 \div 4 = 3 \\
 \text{(三)} \quad 12 \div 4 = 3 \\
 \text{(三)} \quad 12 \div 4 = 3
 \end{array}$$

(ホ) 除法定義

(甲) 或る数の内に、或る他の数を



幾つ含めるかといふことを見出す法を除法といふ。

(乙) 或る數を、或る他の數に等分する法を、除法といふ。

### 第三課 乗法の簡法

(一) 乗數の末位に零あるときは、其の零を取り除きて乗じ、かくして得たる積の末端に、其の零を添ふべし。

今、43 を 200 倍せんとする時、まづ 200 の末位の 00 を省き、43 を 2 倍して、其の積 86 を得、此の 86 の末位の次に、初に省きたる 00 を附すべし。

例

$$43 \times 200$$

$$\begin{array}{r} 43 \\ \times 2 \\ \hline 86 \end{array}$$

さて、此の積の末位の次に、さきに取り除きたる零二つを添ふべし。即ち答は 8600 なり。

(二) 被乗數の末位に零あるときも、前法に同じ。

例

$$63000 \times 5$$

$$\begin{array}{r} 63 \\ \times 5 \\ \hline 315 \end{array}$$

積の末位の次に、初め省きおきし零三つを添ふべし。即ち答は 315000 なり。

(三) 乗數の中位に零あるときは、之を被乗數の各位に乘ぜずして、單に其の下に下して書くべし。

例

$$834 \times 504$$

上の如き場合に於て、4 を被乗數の各位に乘じたる後、0 は乗數

の各位に乘せずして、單に其の位の直下に書き記し、而して後直ちに5を乗數の各位に乘すべし。

例

$$\begin{array}{r} 834 \\ \times 504 \\ \hline 3336 \\ 0 \\ \hline 4170 \\ 420336 \end{array}$$

(四) 乘數が被乘數より大なるときは、其の兩數を反對に置きて乘すべし。

例

$$3 \times 48$$

此の如き時は、被乘數の3と、乘數の48との位置を取り換へ、48を被乘數の如く、3を乘數の如くにして運算すべし。

例

$$\begin{array}{r} 48 \\ \times 3 \\ \hline 144 \end{array}$$

### 第四課 除法の簡法

(一) 被除數の末位に、除數の末位の零と同數以上の零を有すると、きは、雙方同數の零を省きたる後、通常の除法を行ふべし。

例

$$4800 \div 400$$

此の如き時は、先づ400の00と、4800の00とを、共に省き、而して後に運算すべし。

$$\begin{array}{r} 12 \\ 4 \overline{) 48} \\ \underline{4} \phantom{0} \\ 8 \phantom{0} \\ \underline{8} \phantom{0} \\ 0 \end{array}$$

(二) 被除數の末位に有する零の數が、除數の末位の零より少なきとき、或は、被除數のみ全く零を有せざるときは、除數の末位の零を省くと共に、これと同位の數字を、被除數の末位より取り去り置きて、通常の除法を行ふ

べし。  
(イ) 取り去りし数のみ残数となる場合。

例  $5680 \div 400$  此の如きときは、除数400の00を省くと共に、被除数の末位にて、こ

れと同位の80を省き、而して後に運算すべし。此の省きたる80は、残数として答の後に記すべし。

例 
$$\begin{array}{r} 14 \\ 456 \overline{) 6384} \\ \underline{456} \phantom{0} \\ 1824 \\ \underline{1440} \\ 384 \\ \underline{384} \\ 0 \end{array}$$

(ロ) 取り去りし数のみならず、其の他にも残数ある場合。

例  $7320 \div 300$  
$$\begin{array}{r} 24 \\ 3 \overline{) 732} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 132 \\ \underline{120} \\ 120 \\ \underline{120} \\ 0 \end{array}$$
 此の如きときは、初め残り、20と割

り残り、1に00を添へたる100とを加へて、残り120とす。

### 第二章 檢算法

運算に誤なきか否かを検査する法を、檢算法といふ。

#### 第一課 加法の檢算法

法

運算の順序を反對にして、加法を行ふべし。其の和前後同一なる時は、其の答、正確なり。

例 (一) 
$$\begin{array}{r} 84 \\ + 12 \\ \hline \end{array}$$
 (二) 
$$\begin{array}{r} 48 \\ + 12 \\ \hline \end{array}$$

#### 第二課 減法の檢算法

法

減數に差を加へて、其の和被減數に均しきときは、其の答、正確なり。

例 (一) 
$$\begin{array}{r} 73 \\ - 34 \\ \hline \end{array}$$
 (二) 
$$\begin{array}{r} 34 \\ + 7 \\ \hline \end{array}$$

### 第三課 乗法の検査法

乗數と被乗數とを倒置して相乗じ、其の積前に運算せし時の積と同一なるときは、其の答は必ず正確なり。

例 (一)  $\begin{array}{r} 34 \\ \times 12 \\ \hline \end{array}$  (二)  $\begin{array}{r} 43 \\ \times 12 \\ \hline \end{array}$

### 第四課 除法の検査法

除數に商を乗じたる積が、被除數に均しきときは、其の答は必ず正確なり。

例 (一)  $\begin{array}{r} 17 \\ 5 \overline{) 85} \\ \underline{5} \phantom{0} \\ 35 \\ \underline{35} \\ 0 \end{array}$  (二)  $\begin{array}{r} 17 \\ \times 5 \\ \hline 85 \end{array}$

## 第三章 加減乗除 第一課 雜題

- (1)  $(23 \times 45) \div 9$  (2)  $(125 + 389 + 473) \times 7$   
 (3)  $(875 - 598) \times (123 - 85)$   
 (4)  $(735 \div 7) - (1040 \div 20)$   
 (5)  $(6054 \div 6) \times (400 \div 25)$   
 (6)  $(13796 + 5807) \div (345 - 278)$   
 (7)  $(789 \times 87) + (12856 \div 4) - (1750 + 3396 + 3527)$   
 (8)  $\{(35675 \div 5) + (17896 \div 4)\} \times 17$

(一) 墨十八艇と二十六艇とあり、此の内より、三十三艇を賣らば、残り幾艇となるか。

(二) 或る港の内に、汽船十八艘、帆船二十五艘、和船五十八艘碇泊せり、此の船總計幾何。

(三) 或る數を二十五倍すれば、九千となるといふ、或る數は幾何なるか。

(四) 或る數を二十五等分すれば、九

百となると云ふ、或る數は幾何なるか。

(五)二百個の雞卵あり、之を十四人にて等分せんとするに、其の内十及個は既にくさりたれば、之を取り除きて、残りを等分したり、二人の得たる卵の數幾何なるか。

(六)或る數を二十五倍したるものは、四千八百なりといふ、或る數は幾何なるか。

(七)魚を釣る人あり、ある日釣り上げたる魚數は、午前に二十七尾、午後に三十八尾なりしが、これを其の前日に釣り上げし魚數にくらふれば、尙ほ十八尾少なるか。

しといふ、前日釣り上げし魚は幾何なるか。

(八)松杉檜合せて五百三十四本あり、其の内、松は二百四十七本にして、杉は百八十三本なりといふ、檜の數は幾何なるか。

(九)或る人の所有せる山林に、松四百五十九本、杉六百二十三本ありといふ、其の和及び差各幾何なるか。

(一〇)米商あり、一石につき金九圓五拾錢の米、七十六石を買入れて、之を一石につき金拾壹圓にて賣り拂へりと云ふ、其の利益幾何なるか。

(一一)雜穀商あり、金參百圓を以て、

一俵に付金九圓の米と、一俵につき金六圓の麥とを、俵數相等しく買はんとす、此の俵數幾何なるか。

(二二) 梨の實二十五個入の箱三百五十二あり、之を四十四個入の箱に移さんとせば、幾箱を造るべきか。

(二三) 端物二十四端を、甲乙兩人に等分すべきところ、甲は十五端を取りし故、其の取り越し代價として、乙に金拾貳圓を與へたりと云ふ、端物一端の價幾何なるか。

(二四) 一株百圓にして、年五圓利付の公債證書六百株を持てる人

の歳入の總額幾何なるか。

(二五) 絹百三十端を金五百四拾八圓に賣りて、七端の元價を利せりと云ふ、一端の原價幾何。

(二六) 米百石を仕入れ、これを金千百圓に賣りて、米十石の原價だけの利を得たりと云ふ、一石の原價幾何。

(二七) 井の深さを測るに、長さ二丈六尺の繩を二つ折りにすれば六尺餘ると云ふ、井の深さ何程なるか。

(二八) 西海道の盛暑は華氏九十六度に昇り、極寒は三十二度に降ると云ふ、平均の溫度幾何なるか。

(一九)河の兩岸に櫻樹を植うるに、四間毎に一本とし、長さ三百六十間とすれば、櫻樹幾本を要するか。

(二〇)栗と梨と林檎と、合計百個あり、其の中にて梨は栗より十九個多く、林檎は梨より十七個多しと云ふ、各果の數幾何なるか。

### 第四章 複名數

#### 第一課 單名數及び

#### 複名數

(一)數を以て、事物の量を示したるを數量と云ふ。

(二)數量を表はせる數を名數と云ふ。

(三)名數に、單名數と複名數との二

種あり。

一つの數量を表はすに、只一つの名目を用ふる名數を、單名數と云ひ、二つ以上の名目を用ふる名數を複名數と云ふ。

單名數の例

(名目)

(用例)

個 石一個

柄 八個

羽 鴨二羽

鳩 二十六羽

匹 馬五匹

牛 三百二十四

尾 鯉三尾

鯛 八尾

人 男四人

女 六十九人

錠 墨九錠

鍬 二錠

冊 作文書一冊 修身書二冊

枚 白紙五枚 障子三枚

本 筆十三本 杖三本

筋 手拭三筋 帶四筋

複名數の例

(名目) (用例)

丈、尺、寸、分 木綿三丈二尺八寸六分  
里、町、間、尺 山道五里十六町七間三  
尺

石、斗、升、合 米十二石五斗六升三合  
町、段、畝、步 田地七町八段九畝二十  
五步

貫、匁、分、厘 茶二貫三百十六匁三分  
五厘  
圓、錢、厘 金五圓六拾參錢八厘

### 第二課 諸等數の意義

一つの數量を表はすに、二つ以上の名目を用ふる名數、即ち複名數

を諸等數と云ふ。

### 第三課 貨幣

(一)物品の價を度り、其の賣買に必要なるものを貨幣と云ふ

(二)貨幣は、壹圓を單位とし、それより順次に其の十倍を以て、拾圓・百圓・千圓と位を進む、而して壹圓の百分の一を壹錢と云ひ、千分の一を壹厘と云ふ。

(一) 貨幣  
厘 1000  
錢 100  
圓 1  
1 = 10  
1 = 1000

### 第四課 容量

(一)物の大小を表すべき名目を容量と云ふ。



(二) 容量を度るには、升を用ふ。  
 (三) 升目は、一石を單位とし、是より順次に、其の十倍を以て、十石・百石・千石と位を進め、又、一石より以下は、順次に、其の十分の一宛を以て、斗・升・合と位を降す。

$$\begin{array}{r} \text{合} \\ 1000 \\ = \\ \text{升} \\ 100 \\ = \\ \text{斗} \\ 10 \\ = \\ \text{石} \\ 1 \end{array}$$

### 第五課 重量

(一) 物の輕重を表すべき名目を、重量と云ふ。  
 (二) 重量を度るには、秤を用ふ。  
 (三) 秤目は、一貫目を以て單位とし、是より順次に、其の十倍を以て、

十貫目・百貫目・千貫目と位を進め、而して、一貫目の千分の一を、一匁と云ふ。

(四) 重量を度るに、斤稱を用ふることあり、一斤は百六十目なり。但し、土地の習慣及び品物の種類により、百二十匁或は二百目等を以て、一斤となすことあり。

$$\begin{array}{r} \text{厘} \\ 1000 \\ = \\ \text{分} \\ 100 \\ = \\ \text{目} \\ 10 \\ = \\ \text{斤} \\ 1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{匁} \\ 1000 \\ = \\ \text{貫} \\ 1 \end{array}$$

### 第六課 尺度

(一) 物の長短、遠近を表はすべき名目を、尺度と云ふ。

(二) 尺度をはかるには、尺を用ふ。  
 (三) 尺は、一丈を單位とし、これより順次に、十丈・百丈・千丈と位を進め、又、一丈より以下は、順次に、其の十分の一宛を以て、尺・寸・分・厘と位を降す。

(四) 尺度に二種あり、一を曲尺と云ひ、他を鯨尺と云ふ。  
 鯨尺の一尺は、曲尺の一尺二寸五分に等し。  
 曲尺は、主として工業に用ひられ、鯨尺は、主として裁縫に用ひらる。

尺	厘
分	10000
1000 =	1000
100 =	100
10 =	10
1 =	
尺曲	分
寸	5
尺	1

(四)	度	寸	尺	丈
		100 =	10 =	1 =
		1 =	10 =	100 =
			1 =	10 =
				1 =
	尺鯨			
	尺			
	1			
	=			

### 第七課 里法

(一) 海陸の遠近を度る法を、里法と云ふ。  
 (二) 陸里法は、陸地の遠近を度る法にして、一里を單位として、其の位を十進し、十里・百里・千里と稱ふ。而して、其の三十六分の一を、一町と云ひ、一町の六十分の一を、一間と云ひ、一間の六分の一を、一尺と云ふ。又、鐵道の長さを度るには、哩を單位となす、一哩は十四町四十五間に當れり。

(三)海里法は海上の遠近を度る法にして、十六町五十六間一尺を以て、一哩とせり。

		尺			
	里	陸	間	町	里
	法	里	間	町	里
	1=	12960	=	160	=
		360		60	
		6		1=	
	哩			町	間
	1=			14	45
				里	海
	哩			町	間
	1=			16	56
				尺	1

### 第八課 畝法

(一)地面の廣狹を度る法を畝法と云ふ。

(二)畝法は一町を單位として、其の位を十進し、十町・百町と稱ふ、而して、又一町の十分の一を、二段と云ひ、一段の十分の一を、一畝と云ひ、一畝の三十分の一を、一

歩と云ふ、一步は六尺四方面なり。

(三)歩は又坪と云ふことあり、屋敷・庭園地等を度るに用ふ。

(四)器物の面を度るには、通例、一平方寸等の名稱を用ふ、一尺四方の面を、一平方尺と云ひ、一寸四方の面を、一平方寸と云ふ、一坪の面とは、三十六平方尺の面なり。

	步			
	3000	=	100	=
	畝		10	=
	1=		1=	
	300		30	
	段		1=	
	1=		1=	
	10		1=	
	町		法	畝

### 第九課 時法

(一) 時の長短を度る法を時法といふ。

(二) 時は、一年を單位として、其の位を十進し、十年・百年と稱ふ。又、一年を十二の月に別つ、而して、一・三・五・七・八・十・十二の月は、各、三十一日にして、之を大の月と云ひ、二・四・六・九・十一の月を小の月と云ふ。小の月は各、三十日なれども、二月のみは、平年二十八日、閏年二十九日なり、又、七日を一週と云ふ。

(三) 一日の二十四分の一を、一時と云ひ、一時の六十分の一を一分と云ひ、一分の六十分の一を一秒と云ふ。

(七) 時法

年	1 = 12	大の月	日	1 = 31	小の月	日	1 = 30
週	1 = 7	時	分	1 = 60	秒	分	1 = 60
		1 = 24	1 = 1440	1 = 86400			

第十課 諸等數の通法

(一) 諸等數の通法とは、諸等數を低き位の一名目の數となす法を云ふ。

(二) 諸等數の通法に二法あり、左の如し。

(甲) 十進數なる諸等數の通法。

(算法)

別に計算を施すに及ばず、直

ちに其の數を最も低き位の一名目の數として讀み下すべし。

(例題)

(1) 六丈八尺五寸六分を分の數に化せよ。

6丈 8尺 5寸 6分  
答 六千八百五十六分

(2) 金四圓參拾六錢八厘を厘數に化せよ。

4圓 36錢 8厘  
答 四千參百六拾八厘

(3) 五貫七百六十五匁を匁數に化せよ。

5貫 76匁 5匁  
答 五千七百六十五匁

(4) 八石七斗六升三合を合數に

に化せよ。

8石 7斗 6升 3合  
答 八千七百六十三合

(乙) 十進數ならざる諸等數の通法

(算法)

第一項の數を第二項と同位の數に變じ、これを第二項の數に加へ、順次此の法を施して、終に求むる所の名目を有する數に至らしむべし。

(例題)

(1) 二里十七町三十二間五尺を尺數に化せよ。

5尺 36  
× 2  
72  
+ 17  
89町  
32232  
+ 5  
32237尺

2里 17町 32間  
60  
× 89  
540  
480  
+ 32  
5372間  
6  
+ 5372  
12  
42  
18  
30  
32232

かくの如くにして得たる  
三萬二千二百三十七尺を  
以て、其の答となすべし。

(2) 三町二段三畝六歩を步數  
に化せよ。

町・段・畝は十進數なるを以  
て直ちに、これを畝の名目  
に讀み下すことを得、故に  
三百二十三畝を、步數に變  
ぜしむべし。

3 町			
2 段			
3 畝			
6 步			
30			
× 323			
90			
60			
90			
9690	+	6	= 9696 步

かくの如くにして得たる  
九千六百九十六歩を以て、

其の答となすべし。

(3) 一年五ヶ月二十五日六時  
二十五分を分の數に化せ  
よ。

但し此等の問題にては假  
りに一ヶ月を三十日とし  
て算すべし。

1 5 25 6 25			
年 月 日 時 分			
12			
× 1			
12	+	5	= 17 月
30			
× 17			
210			
30			
510	+	25	= 535 日

24			
× 535			
120			
72			
120			
12840	+	6	= 12846 時
60			
× 12846			
360			
240			
480			
120			
60			
770760	+	25	= 770785 分

かくの如くして得たる七十七萬七百八十五分を答とすべし。

### 第十一課 諸等數通法

#### 問題

第一左の複名數を町數に化すべし。

- (一) 四里二十四町。
- (二) 四十五里二十町。
- (三) 五十一里三十四町。
- (四) 六十六里。

第二左の複名數を間數に化すべし。

- (一) 二十七町四十六間。
- (二) 三十町三十二間。
- (三) 八里十五町。

- (四) 五里二十五町二十五間。
- (五) 二十九里二十町四十二間。
- (六) 八里四十五間。
- (七) 四十八里三十七間。

第三左の複名數を尺數に化すべし。

- (一) 三十三間五尺。
- (二) 四十九間四尺。
- (三) 三十七町二十五間。
- (四) 二十三町五十八間。
- (五) 十八町五十七間五尺。
- (六) 二十三町三十八間三尺。
- (七) 三十三町四尺。
- (八) 三十一町三尺。
- (九) 二町。
- (一〇) 六里十五町。

- (一) 一三十三里二十七町。
- (二) 二十五里二十六町四十二間。
- (三) 六里五十八間。
- (四) 五十五里三十四間。
- (五) 三里二十六町三十五間五尺。
- (六) 二里三十五町十八間五尺。
- (七) 六十三里三十二町二十七間二尺。
- (八) 五里二十五町五尺。
- (九) 四十七里二十八町五尺。
- (一〇) 三里二十八間二尺。
- (一一) 三十一里二十二間四尺。
- (一二) 四里五尺。
- (一三) 五十一里四尺。
- (一四) 三里。

第四左の複名數を步數に化すべし。

- (一) 五畝二十七步。
- (二) 七畝。
- (三) 八畝二十四步。
- (四) 八段五畝。
- (五) 五段六畝。
- (六) 六段四畝十五步。
- (七) 三段八畝十七步。
- (八) 五段二十三步。
- (九) 四段二十五步。
- (一〇) 二段。
- (一一) 五町八段。
- (一二) 三十五町三段。
- (一三) 七町五段六畝。
- (一四) 四十七町四段七畝。



(一五)三十三町五段。

(二六)五町四段五畝二十一步。

(二七)十九町七段五畝二十三歩

(二八)八町八段八畝。

(二九)二十四町五段二十五歩。

第五左の複名數を時數に化すべし。

(一)四日二十五時。

(二)七日二十時。

(三)十三日十三時。

(四)二十五日。

第六左の複名數を分の數に化すべし。

(一)六時四十六分。

(二)十九時十七分。

(三)七日二十時。

(四)二十五日一時。

(五)二日二十二時四十五分。

(六)三十六日十一時二十四分。

(七)五日四十二分。

(八)四十五日三十分。

第七左の複名數を秒數に化すべし。

(一)十九分二十四秒。

(二)三十八分十七秒。

(三)六時三十五分。

(四)十九時二十分。

(五)五時二十四分四十五秒。

(六)十五時三十五分二十八秒。

(七)八時三十八秒。

(八)一時。

(九)四日二十五時。

- (一〇) 三十三日二十三時。
  - (一一) 三日十五時三十三分。
  - (一二) 十六日十一時四十分。
  - (一三) 四日二十七分。
  - (一四) 二十八日三十二分。
  - (一五) 一日二十一時三十三分四十二秒。
  - (一六) 二十一日十六時二十九分十二秒。
  - (一七) 三日十七時三十九秒。
  - (一八) 三十日十一時四十二秒。
  - (一九) 四日二十七分四十秒。
  - (二〇) 十五日三十八分五十三秒。
- 第八左の複名數を單名數に變ずべし。
- (二) 五年二ヶ月を月數に變ずべし。

- (三) 九年九ヶ月を月數に變ずべし。
- (四) 十五年を月數に變ずべし。
- (五) 五ヶ月十七日を日數に換算すべし。
- (六) 八ヶ月二十七日を日數に換算すべし。
- (七) 五ヶ月を日數に換算すべし。
- (八) 九週六日を日數に變ずべし。
- (九) 十七週三日を日數に變ずべし。
- (一〇) 二十五週を日數に變ずべし。
- (一一) 七週三日十四時を時數に變ずべし。
- (一二) 三週二日十五時二十四分。

を分の數にすべし。

(一二)一週三日三十五分五十六秒を秒數に變ずべし。

第九左の複名數を單名數に變ずべし。

(一)金參圓を錢數に變ずべし、又之を厘數になさば幾何なるか。

(二)藥種四斤三十兩三匁を匁數に變ずべし。

但し、一斤は四十兩にして、一兩は四匁なり。

(三)布二十二疋一端二丈二尺を尺數に變ずべし。

但し、一疋は二端にして、一端は二丈八尺なり。

(四)米五石三斗を升數に變ずべし、又これを合數にせば如何。

(五)一哩即ち十四町四十五間を間數に變ずべし。

(六)九年十ヶ月を月數に變ずべし。

(七)八町七段五畝二十一步を歩數に變ずべし。

(八)六里十七町十八間を間數に變ずべし。

(九)十五斤百二十匁を匁數に變ずべし。

(一〇)六日二十三時を分數に變ずべし。

又、これを秒數にせば如何。

(一一)琵琶湖の周圍は七十三里

三十一町なりと云ふ、之を町數になさば如何、又間數にせば如何。

(二) 利根川の舟程は七十一里十一町なりと云ふ、之を町數にせば如何、又間數にせば如何。

### 第十二課 諸等數の命法

#### 命法

(一) 諸等數の命法とは、諸等通法の反對の算法にして、單名數にて示したる諸等數を、複名數となす法を云ふ。

(二) 諸等數の命法に二法あり、左の如し。

(甲) 十進なる諸等數の命法。

#### (算法)

別に計算を施すに及ばず、唯數の位に従ひて、直に其の數に複名を與ふれば、之を得べし。

#### (例題)

(1) 金二千五百六拾七厘を複名數に化せよ。

$2567$  厘      答       $2567$  錢 卽ち貳圓五拾六錢七厘なり。

(2) 三千五百四十六分を尺度の複名數に化せよ。

$3546$  分      答       $3546$  寸 卽ち三丈五尺三寸六分。

(3) 四千九百三十六匁を複名數に化せよ。

$$\begin{array}{r} 4936 \\ \text{答} \end{array}$$
4貫9百36  
 即ち四貫九百三十六匁。

(4) 七千三百六十八合を複名數に化せよ。

$$\begin{array}{r} 7368 \\ \text{答} \end{array}$$
7石3斗6升8合  
 即ち七石三斗六升八合。

(乙) 十進ならざる諸等數の命法。  
 (算法)

最下位より順次上位の數に化し行かば最後の商は、其の數の中に有する最高位の名數にして、各位の殘數は、各位の名數となるなり。

(例題)

(1) 八百十三尺を複名數に化せよ。

先づ尺數を間數となし、次に間數を町數となす。

$$\begin{array}{r} 135 \text{間} \\ 6 \overline{) 813} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 21 \phantom{0} \\ \underline{18} \phantom{0} \\ 33 \phantom{0} \\ \underline{30} \phantom{0} \\ 3 \dots \text{殘リ} \\ \text{尺} \end{array}$$

かくの如くして得たる、二町十五間三尺を其の答となす。

(2) 八千百七十七間を複名數に化せよ。

先づ間數を町數となし、次に町數を里數に化すべし。

$$\begin{array}{r} 136 \text{町} \\ 60 \overline{) 8177} \\ \underline{60} \phantom{00} \\ 217 \phantom{0} \\ \underline{180} \phantom{0} \\ 377 \phantom{0} \\ \underline{360} \phantom{0} \\ 17 \dots \text{殘リ} \\ \text{間} \end{array}$$
  

$$\begin{array}{r} 3 \text{里} \\ 36 \overline{) 136} \\ \underline{108} \phantom{0} \\ 28 \dots \text{殘リ} \\ \text{町} \end{array}$$

かくの如くして得たる三里二十八町十七間を、求むるところの答とす。

(3) 九千六百九十六歩を複名數に化せよ。

町段畝は、十進數なるを以て、運算するに及ばず、直ちに之を複名數に讀み下たすことを得るなり。

先づ歩數を畝數に變ず。

$$\begin{array}{r}
 323 \text{畝} \\
 30 \overline{) 9696} \\
 \underline{90} \phantom{00} \\
 69 \phantom{00} \\
 \underline{60} \phantom{00} \\
 96 \phantom{00} \\
 \underline{60} \phantom{00} \\
 6 \text{---残リ} \\
 \text{歩}
 \end{array}$$

町 3    段 2    畝 3    歩 6

故にかくの如くして得たる三町二段三畝六歩を以て、求むる所の答とすべし。

(4) 一萬二千五百六十七秒を複名數に化すべし。

先づ分數に化し、次に時數に化す。

$$\begin{array}{r}
 209 \text{分} \\
 60 \overline{) 12567} \\
 \underline{120} \phantom{00} \\
 567 \phantom{00} \\
 \underline{540} \phantom{00} \\
 27 \text{---残リ} \\
 \text{秒}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 3 \text{時} \\
 60 \overline{) 209} \\
 \underline{180} \phantom{00} \\
 29 \text{---残リ} \\
 \text{分}
 \end{array}$$

かくの如くして得たる三時二十九分二十七秒は、求むる所の答なり。

(5) 六萬四千八百三十分を複名數に化せよ。

先づ時數に化し、次に之を日數に化し、尙ほ之を月數に化すべし。

$$\begin{array}{r}
 1080 \text{時} \\
 60 \overline{) 64830} \\
 \underline{60} \\
 483 \\
 \underline{480} \\
 30 \dots \text{残り} \\
 \text{分} \\
 45 \text{日} \\
 24 \overline{) 1080} \\
 \underline{96} \\
 120 \\
 \underline{120} \\
 0 \\
 \text{時}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 1 \text{月} \\
 30 \overline{) 45} \\
 \underline{30} \\
 15 \dots \text{残り} \\
 \text{日}
 \end{array}$$

かくの如くして得たる、一ヶ月十五日〇時三十分は答なり。

### 第十三課 諸等數命法 問題

第一左の單名數に里町の名を命ずべし。

- (一) 二百二十五町。
- (二) 一千八百十五町。

第二左の單名數に里町間の名を命ずべし。

- (三) 一千九百五町。
- (四) 二千四百二十一町。
- (一) 一千五百九十五間。
- (二) 一千八百五十三間。
- (三) 二萬五百六十間。
- (四) 三萬六千六百四十間。
- (五) 一萬五千七百五間。
- (六) 七萬一千九百七間。
- (七) 一萬八千四百七十五間。
- (八) 十萬一千六百四十七間。

第三左の單名數に里町間尺の名を命ずべし。

- (一) 二百四尺。
- (二) 三百九十尺。

- (三)六千五百二尺。
- (四)八千六百二十五尺。
- (五)七千七十五尺。
- (六)八千九百七十五尺。
- (七)一萬千六百二十五尺。
- (八)八千三百三尺。
- (九)八萬八千二百八十尺。
- (一〇)四十四萬九千八百二十尺。
- (一一)十七萬八千三百二尺。
- (一二)三十三萬八千八百三十七尺。
- (一三)八萬八千八十四尺。
- (一四)七十萬七十二尺。
- (一五)五萬九千五百七尺。
- (一六)三萬八千五百二十二尺。
- (一七)八十三萬五千六百六十四尺。

- (一八)五十七萬三千八百二十三尺。
  - (一九)四十一萬五千七百七十四尺。
  - (二〇)六十八萬四千八百二十五尺。
- 第四左の單名數に町段畝歩の名を命ずべし。
- (一)二百七十六歩。
  - (二)二千三百七十歩。
  - (三)一千八百四十歩。
  - (四)二千二百九十七歩。
  - (五)一千百七十八歩。
  - (六)一千九百二十九歩。
  - (七)一千三百二十五歩。



- (八)一萬千六百步。
  - (九)八萬千九百步。
  - (一〇)二萬三千八百五十步。
  - (一一)十五萬八千二百五十步。
  - (一二)一萬六千三百四十步。
  - (一三)一萬四千五百七十三步。
  - (一四)五萬七千二百九十五步。
  - (一五)一萬八千八百六步。
  - (一六)七萬九百二十七步。
  - (一七)二萬九千三百二十步。
  - (一八)十三萬千九百九十六步。
  - (一九)九萬七千三百九十九步。
- 第五左の單名數に日時の名を命ずべし。
- (一)百十六時。
  - (二)二百三十六時。

- (三)三百二十七時。
  - (四)五百五十三時。
- 第六左の單名數に日時分の名を命ずべし。
- (一)四百六十九分。
  - (二)一千百五十八分。
  - (三)一萬五千四百四十分。
  - (四)三萬三千二十分。
  - (五)四千五百三分。
  - (六)五萬三千五百四十五分。
  - (七)七千三百五十分。
  - (八)六萬五千八百三十分。
- 第七左の單名數に日時分秒の名を命ずべし。
- (一)一千六十五秒。
  - (二)三千三百五秒。

- (三)七萬九千五百五十秒。
- (四)二萬四千七百二十八秒。
- (五)五萬八千七百二十九秒。
- (六)三萬三千四百三十七秒。
- (七)五萬六千八百十六秒。
- (八)四十三萬千二百秒。
- (九)二百九十四萬七百六十秒。
- (一〇)二十六萬八千八百八十秒。
- (一一)百五十二萬四千六百二十秒。
- (一二)三百四十二萬四千四百二十秒。
- (一三)六十萬七千七百二十秒。
- (一四)十四萬八千四百五十三秒。
- (一五)百八十七萬七千七百九十秒。

- (一六)二十三萬六千八百三十八秒。
  - (一七)二百十八萬九千六百二十秒。
  - (一八)四十三萬四千四百六十七秒。
  - (一九)百三十七萬四千六百六十七秒。
  - (二〇)三十三萬五千六百三十四秒。
  - (二一)二百三十四萬六千四百四十三秒。
- 第八左の單名數に年月日及び週名を命ずべし。
- (二)五十八ヶ月。
  - (三)百十六ヶ月。

(三)百三十八日。

(四)二百九十四日。

(五)百七十日。

(六)六十三日。

(七)百三十二日。

(八)百七十四日。

(九)一千五百五十三時。

(一〇)二萬五千五百三分。

(一一)七十七萬八千七百九十六  
秒。

第九左の單名數を複名數に變ず  
べし。

(一)麥四百三十升に石斗の名を  
命ずべし。

(二)富士山の高さは一萬二千四  
百六十七尺なり、今之に町間

の名を命ずれば何程なるか。

(三)絹一千三百二十五尺に、正端  
丈の名を命ずべし。

(四)生糸七百三十三匁に、斤の名  
を命ずべし。

(五)一千四百時に、週日時の名を  
命ずべし。

(六)二萬八千七百三十一歩に、町  
段畝の名を命ずべし。

(七)百十三ヶ月に、年の名を命ず  
べし。

(八)四百拾八錢に、圓の名を命ず  
べし。

(九)一萬三千八百九十七間に、里  
町の名を命ずべし。

(一〇)一萬千五百分に、日時の名

- を命すべし。
- (一) 藥種八百八十六匁に斤兩の名を命すべし。
- (二) 綿三千五百匁に貫目の名を命すべし。

### 第十四課 諸等數加法

#### (一) 算法

- (1) 十進なる諸等數の加法は、通常の加法に同じ。
- (2) 十進ならざる諸等數の加法は左の如し。
- (イ) 通常の加法の如く、各數の位を揃へて列記すべし。
- (ロ) 最下位の名數より順次に各名數を各別に相加ふべし。

(ハ) 孰れの位の名數にても、上位の名數に化するに足るべき數となるときは、之を上位の數に化し、而して其の數を、上位の名數に加ふべし。

#### (二) 例題

- (1) 金參圓五拾六錢八厘と、貳拾五圓四拾九錢四厘と、百參拾五圓六拾四錢八厘と、貳拾七圓五拾九錢七厘との合計幾何。

	厘	錢	圓
	8	4	3
	4	9	5
	8	6	5
	7	5	2
		9	2
		7	1
		3	1
		0	9

かくの如くして得たる、百九拾貳圓參拾錢七厘を答とす



八里三十五町十二間一尺との  
總計如何。

(七) 八里と、五町五十間二尺と、五十  
三里二十九町五十四間と、十八  
里四町五間三尺との總計如何

(八) 二ヶ月二十八日七時二十五分  
十八秒と、二十日十時三十五分  
四十七秒と、一ヶ月十日二十時  
三十三分四秒と、二ヶ月十日十  
五時二十一分十八秒との總計  
如何。

### 第十六課 諸等數減法

(一) 算法

- (1) 十進なる諸等數の減法は、通  
常の減法に同じ。
- (2) 十進ならざる諸等數の減法

は、左の如し

(イ) 通常の減法の如く、兩數の  
位を揃へて列記すべし。

(ロ) 最下位の名數より、順次に  
各名數を別々に減算すべ  
し。

(ハ) 孰れの位の名數にても、被  
減數が減數より小なると  
きは、上位の名數より下し  
來りて、其の不足を補ふべ  
し。

(二) 例題

(一) 木綿三丈八尺五寸六分より、  
二丈五尺七寸二分を減すれ  
ば、殘數幾何。

分	6	2	4
寸	5	7	8
尺	8	5	2
丈	3	2	1

かくの如くして得たる一丈二尺八寸四分を答とすべし。  
 (二)九十三里二十五町四十八間五尺より六十四里三十二町四十四間三尺を減すれば、殘數幾何。

$$\begin{array}{r} \text{尺} \\ 532 \\ - \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{間} \\ 844 \\ - \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{町} \\ 236 \\ + \\ 61 \\ - \\ 32 \\ 29 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{里} \\ 934 \\ - \\ 29 \\ 1 \\ 28 \end{array}$$

かくの如くして得たる二十八里二十九町四間二尺を答とすべし。

### 第十七課 諸等數減法

#### 問題

- (一)二十五丈六尺より十七丈二尺三寸八分を減ぜよ。
- (二)六拾五圓四拾八錢五厘より四拾八圓九拾參錢四厘を減ぜよ。
- (三)百五十六石七斗三升二合より八十七石六斗五升九合を減ぜよ。
- (四)四十七里二十二町十八間二尺より二十二里三十二町二十間五尺を減ぜよ。
- (五)九十三里二十一町四尺より八十里三十一町五十九間二尺を減ぜよ。
- (六)五町六段八畝二十八步より三

町二段七畝十八歩を減ぜよ。

(七)三十町二段七畝三步より十五

町六段四畝二十七歩を減ぜよ。

(八)三十週二日三時二十五分四十

二秒より二十七週五日十二時

十九分五十秒を減ぜよ。

### 第十八課 諸等數乘法

#### (一)算法

(1)十進なる諸等數の乘法は、通常の乘法に同じ。

(2)十進ならざる諸等數の乘法の算法は、左の如し。

(イ)通常の乘法の如くに、被乘數と乘數とを列記すべし。

(ロ)最下位の名數より、順次に各名數を各別に乘すべし。

(ハ)孰れの位の名數の乘積にても、上位の名數に化するに足るべき數となりし時は、之を上位の數に化し、其の數を上位の名數に加ふべし。

#### (二)例題

(1)金五圓六拾八錢四厘の八倍は幾何。

厘	4	8	2
錢	8	4	7
圓	5	6	4
圓	4	5	4

かくの如くして得たる四拾五圓四拾七錢貳厘を答とすべし。

(2)五里六町十二間四尺の八倍は幾何。



尺	4	8	2	0
	3	3	0	2
問	1	2		
	9	6		
	+	5		
	1	0	1	
	-	6	0	
		4	1	
町	6			
	4	8		
	+	1		
	4	9		
	-	3	6	
		1	3	
里	5			
	4	0		
	+	1		
	4	1		

かくの如くして得たる四十一里十三町四十一間二尺を答とすべし。

### 第十九課 諸等數乘法

#### 問題

- (一) 金七圓參拾九錢五厘の四倍は幾何。
- (二) 七石三斗二升八合の五倍は幾何。
- (三) 三丈五尺三寸二分の四倍は幾何。

- 何。
- (四) 八町九段七畝二十六歩の七倍は幾何。
- (五) 四十二町三畝九歩の十二倍は幾何。
- (六) 十二里四町四十五間三尺の六倍は幾何。
- (七) 三十里十八町十九間四尺の十八倍は幾何。
- (八) 二十五日十一時二十五分七秒の三倍は幾何。
- (九) 十六時二十五分四十二秒の三倍は幾何。

### 第二十課 諸等數除法

#### (一) 算法

(1) 十進なる諸等數の除法は通

常の除法に同じ。

(2) 十進ならざる諸等数の除法は左の如し。

(イ) 通常の除法の如く、被除数と除数とを列記すべし。

(ロ) 最上位の名数より順次に各名数を各別に除すべし。

(ハ) 孰れの位の名数にても、除して残数あるときは、之を次位の名数に化して、次位に加へ、而して後に其の位を除すべし。

(二) 例題

(1) 三丈四尺五寸五分を五等分すれば、其の数は幾何。

$$\begin{array}{r}
 691 \\
 \text{丈尺寸分} \\
 \hline
 5 \overline{) 3455} \\
 \underline{15} \phantom{0} \\
 190 \phantom{0} \\
 \underline{15} \phantom{00} \\
 450 \\
 \underline{45} \\
 550 \\
 \underline{55} \\
 0
 \end{array}$$

かくの如くして得たる六尺九寸一分を答とすべし。

(2) 八里二十一町十二間三尺を三等分すれば、其の数は幾何。

$$\begin{array}{r}
 1 \text{ 尺} \\
 3 \text{ 3} \\
 3 \text{ 0} \\
 \hline
 4 \text{ 間} \\
 12 \text{ 12} \\
 0 \text{ 0} \\
 \hline
 31 \text{ 町} \\
 21 \text{ 72} \\
 12 \text{ 93} \\
 0 \text{ 9} \\
 \hline
 2 \text{ 里} \\
 8 \text{ 6} \\
 \hline
 3 \overline{) 86} \\
 \underline{6} \phantom{0} \\
 26 \\
 \underline{24} \\
 72 \\
 \underline{72} \\
 0
 \end{array}$$

かくの如くして得たる二里三十一町四間一尺を答とすべし。

第二十一課 諸等数除法問題

- (一)百參拾六圓六拾貳錢八厘を九等分せよ。
- (二)五十三石七斗一升八合を六等分せよ。
- (三)十五丈六尺三寸八分を七等分せよ。
- (四)三十九里二十九町四十五間二尺を七等分せよ。
- (五)十一里二十七町五十間四尺を八等分せよ。
- (六)二十五町八段六畝を四等分せよ。
- (七)七十二町四段八畝十八歩を二十七等分せよ。
- (八)十二週三日十八時十一分五秒を五等分せよ。

### 第二十二課 諸等數加

#### 減乘除雜

#### 題

- (一)或る人金五圓參拾七錢五厘をもつて買ひ物をなし、に殘金貳圓八拾九錢七厘となれりといふ、買ひ物の金高は何程なるか。
- (二)米五石三斗八升と九石六斗五升五合とあり、これを四斗俵に入れば、幾俵と、何斗何升をあまりますか。
- (三)或る人、三町二段一畝十五歩と一町五段三畝十九歩との山林を所有せしが、この内二町九段五畝二十五歩を賣り拂へり、殘

り幾何なるか。

(四)或る人十五里の地に達せんと  
して既に七里十九町五十間五  
尺を行けりと云ふ、尙ほ幾何の  
道程をあませるか。

(五)甲乙二個の時計あり、甲の時計  
が十二時をうちしとき、乙の時  
計はこれより七分十九秒遅れ  
たりといふ、乙の時計は何時何  
分何秒なるか。

(六)或る人四ヶ所に田地を所有し、  
この總段別四町九段五畝十歩  
なりといふ、平均一ヶ所の段別  
何程なるか。

(七)農夫あり、毎日三段五畝二十五  
歩の畑を耕すと云ふ、一週間に

は何程の畑を耕し終るべきか。

(八)旅人あり、五日間に三十五里十  
八町二間三尺の道程を旅行せ  
りといふ、平均一日に幾何つづ  
行きしや。

(九)甲乙二ヶ所の距離百七十里十  
九町五十間あり、或る人甲地を  
發して乙地に向ひ、數日の後全  
道程の三分の一より五里二十  
八町七間五尺多く行けりと云  
ふ、この人幾何の里程を行きし  
や。

(一〇)この人乙地に達するには、尙  
ほ幾何の里程を旅行すべきか。



- (3) 四厘五毛九糸
  - (4) 四分九厘五毛
  - (5) 三糸
  - (6) 五分六毛
  - (7) 六毛
  - (8) 三個三分八厘五毛
  - (9) 三十七個五厘
  - (10) 六百八十七個九分八厘五毛六糸
- (三)左の小數を日本數字に書き換へよ。
- (1) 7587 (2) .325 (3) .8007 (4) .603
  - (5) .3202 (6) .0008 (7) .036 (8) 3.948
  - (9) 48.004 (10) 64.53

### 第三課 小數加法規則

(一)小數位を揃へて列記すべし。  
 (二)相加へたる數の小數位に合せ  
 て其の和に小數點を附すべし。

例 (一)

$$\begin{array}{r} 2.43 \\ + .683 \\ \hline 3.113 \end{array}$$

(二)

$$\begin{array}{r} 76.8 \\ .25 \\ + .004 \\ \hline 77.054 \end{array}$$

### 第四課 小數加法問題

- (1) 3.25 + 9.4 + .35 (2) 21.611 + 6888.32 + 3.416
- (3) 6.61 + 636.1 + 6516.14 + 67.123 + 5.123
- (4) 4.8 + 48.31 + 74.019 + 11.204
- (5) 45.019 + 7 + 93.432 + 6.04
- (6) 32.46 + 17.05 + 3.65 + 20.04 + 53.07
- (7) 48.05 + .082 + 7.685 + 3.035 + .725
- (8) 921.5 + 7.345 + .023 + 30.05

(9) 9546.3 + .005 + 43.645 + 573.25

(10) 3.45 + .356 + 8.66 + 8.54 + .0034

(一) 或る人、金八圓五拾錢にて酒一樽を買ひ、之を賣りて、金壹圓六拾五錢七厘五毛を利益せりと云ふ、賣り直段は幾何なるか。

(二) 布二丈三尺二寸五分と、三丈七尺七寸二分五厘との合計は幾何。

(三) 木綿一丈五尺二寸五分と、二丈五尺六寸七分との合計は幾何。

(四) 屋敷地二坪七合五勺と、三坪二合五勺と、十二坪五合との合計は幾何。

(五) 木綿一端二丈四尺と、一端二丈一尺と、五端四尺六寸六分との

合計は幾何なるか。

### 第五課 小數減法規 則

(一) 小數位を揃へて列記すべし。  
(二) 相減じたる數の小數位に合せ、て其の差に小數點を附すべし。

例 (一) 
$$\begin{array}{r} .864 - .35 \\ \hline .514 \end{array}$$

(二) 
$$\begin{array}{r} 1.234 - .008 \\ \hline 1.226 \end{array}$$

### 第六課 小數減法問題

(1) 5.03 - 2.115

(2) 96.325 - 76.038

(3) 25.23 - 0.2457

(4) 4.6475 - 3.98

(5) 24.004 - 13.701

(6) 170. - 68.001

(7) .014 - .005

(8) 3.295 - .087

(9) 291.1 - 41.375

(10) 4262.024 - 23.416

- (一) 金參圓より、金貳圓參拾七錢五厘五毛を取らば残り幾何。
- (二) 米一石五斗八升より、八斗二升三合四勺を取らば残り幾何。
- (三) 屋敷地八十六坪七合五勺より、二十坪二合五勺を取らば、残り幾何。

(四) 豆腐三丁半より、一丁二分五厘を取らば残り幾何。

(五) 酒十二石五斗より、五石七斗二合五勺を取らば、残り幾何。

### 第七課 小數乘法規

#### 則

- (一) 末位を揃へて列記すべし。
- (二) 被乗數と乗數とに有する、小數位の和と同じ數の小數位を、其

の積の末位より計へて、其の左に小數點を附すべし。

例

$$\begin{array}{r} .63 \times .5 \\ \times .5 \\ \hline .315 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} .426 \times 3.5 \\ \times 3.5 \\ \hline 2130 \\ 1278 \\ \hline 1.4910 \end{array}$$

### 第八課 小數乘法問題

- (1)  $2.045 \times 32$  (2)  $12.32 \times .05$  (3)  $.037 \times 1.2$
- (4)  $4.5 \times 1.382$  (5)  $8.003 \times 7.2$  (6)  $.35 \times 7$
- (7)  $1.35 \times .005$  (8)  $1.035 \times 1.7$  (9)  $19. \times .125$
- (10)  $6176 \times .0071$

(一) 米一石の價金七圓六拾貳錢五厘なるとき、七十五石の價は幾何。

(二) 種油一升の價金參拾壹錢五厘なるとき、三石二斗七升二合五勺の代金幾何なるか。



- (三)一斤の價金拾壹錢七厘五毛の茶二十斤と、一斤の價貳拾八錢五厘の茶二十五斤と、一斤の價八拾七錢五厘の茶十五斤との總代金幾何なるか。
- (四)畑一町五段六畝の二分五厘は幾何なるか。
- (五)鹽一俵の價金四拾五錢なるとき、三俵二分五厘の鹽を買ふには幾何の金を要するか。

### 第九課 小數除法規

#### 則

- (一)除數の小數點を消し、其の小數位だけ被除數の小數位を降すべし。
- (二)被除數の小數位、これに不足な

るときは、末位に零を補ふべし、  
 (三)被除數に小數位を有するとき  
 は、其の小數位に合せて、其の商  
 に小數點を附すべし。

例 (一)  $46.8 \div 26$

$$\begin{array}{r} 1.8 \\ 26 \overline{) 46.8} \\ \underline{26} \phantom{0} \\ 208 \\ \underline{208} \\ 0 \end{array}$$

(二)  $.855 \div .0045$

$$\begin{array}{r} 190 \\ 45 \overline{) 8550} \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 405 \\ \underline{405} \\ 0 \end{array}$$

### 第十課 小數除法問題

- (1)  $1.125 \div .03$  (2)  $2 \div .008$  (3)  $37.2 \div .5$
- (4)  $472 \div .02$  (5)  $6.725 \div .003$  (6)  $5.3628 \div 1.23$
- (7)  $86.075 \div .275$  (8)  $2.3421 \div 2.11$
- (9)  $33.66431 \div 1.01$  (10)  $8.247 \div .002$

(一) 金五拾五錢の内には、金八厘は幾何あるか。

(二) 一升の價金五錢七厘五毛の麥は、金五圓四拾九錢七厘にて幾升を買ひ得べきか。

(三) 茶一斤の價金七拾五錢なるときは、金拾貳圓にて幾何を買ひ得べきか。

(四) 絹紐二十五丈一尺二寸五分の價金參拾七圓六拾八錢七厘五毛なるときは、一尺の價は幾何なるか。

(五) 端物百五端の價金百拾五圓八拾壹錢五厘なるときは、一端の價何程なるか。

### 第十一課 小數加減

### 乘除雜題

(1)  $2.75 + .056 + 7.54 + .0029$

(2)  $260.79 - 219.691$

(3)  $5375.8003 - 285.6542$

(4)  $.87 \times 9000$

(5)  $29.75896 \div .8$

(一) 酒一升五合と、二升三合五勺と、五升一合五勺との和より、酒三升七合六勺を減ずれば、残り幾何となるか。

(二) 麥七石五斗三升と、五石八斗二升三合と、五石とあり、これを四斗俵につくりしに、三斗五升三合あまれりと云ふ、この俵數は幾何なるか。

(三) 米一俵金四圓五拾錢なるとき、

三俵八厘の米を買ふには幾何の金を要するか。

(四)半紙一帖の價金四錢七厘五毛なるときは、一枚の價幾何なるか。

(五)ハンカチーフ一ダースの代價金七拾五錢なるときは、一枚の價幾何なるか。

### 第六章 應用問題

(一)或る數より二百七十四を減ずれば、九百四十三となるといふ。或る數は、幾何なるか。

(二)或る學校の生徒、男は二百五十八人にして、女より九十七人多しと云ふ、女は幾人なるか。

(三)甲乙兩地の距離十五里十五町

三十間五尺ありと云ふ、これを尺の數になほせば、何尺となるか。

(四)一週間に、十四分つつ進む時計あり、一時間に、何秒つつ進む割合なるか。

(五)二年三ヶ月を、年の數に直せ。

(六)ある村の戸數は、二百七十五戸にして、平均一戸の人員五人づつなりと云ふ、其の村の總人口幾何。

(七)ある人三子に千五百圓を分ち與ふるに、長男に六百參拾圓、次男に四百八拾五圓を與へたりと云ふ、末子に與へし金額幾何なるか。

(八)一人毎日の飯米を、三合五勺と

すれば、十五人一週間の飯米は、何程となるか。

(九)ある人、三日間に十七里五町五十間を旅行せりと云ふ、一日の里程何程なるか。

(一〇)生徒八百六十七人を、三人づつの組に造りて、各組に紙二帖を與へんとす、紙幾帖を要するか。

(一一)麥二十三俵を買ひしに、其の代價金六拾七圓八拾五錢なりといふ、然るときは、麥一俵の代價何程なるか。  
又一俵五斗入とせば、一升の代價金何程なるか。

(一二)人力車あり、二時間に一里三

十五町を走ると云ふ、一分間に何町何間の割合なるか。

(二三)柿一個の代金貳厘貳毛五糸なるときは、十八個の價何程なるか。

(二四)端物二丈七尺五寸の價金壹圓貳拾壹錢なるときは、一尺の代金何程なるか。

(二五)或る人一週間に畑八段五畝五歩を耕せりと云ふ、毎日幾段幾畝幾歩を耕せる割合なるか。

(二六)一端につき、金七拾五錢六厘の木綿を、一尺につき八厘の利にて賣拂へり、一尺の賣價及び一端の利金何程なるか。

K120.9

(二七) 俵の價金四圓七拾五錢の米三俵七分五厘の代金何程となるか。

(二八) 布一尺の價金四錢貳厘五毛なるときは、二丈三尺四寸の價何程なるか。

(二九) 一時間に二十七秒進む時計と十五秒遅くなる、時計とあり、一日間には幾何の差を生ずるか。

(三〇) 長さ二丈八尺の繩を以て、井の深さをはかりしに、この繩の半分より二尺多くあまれりと云ふ、井の深さ幾何なるか。

小學新算術 筆算 高等科 卷一 終

明治卅四年五月二十日印刷  
明治卅四年五月廿三日發行  
小算術之部 高等科 全五冊  
定價 卷一、卷二、卷三、卷四、卷五 十八錢  
價 答之部 金十五錢  
發行所 東京市日本橋區本町四丁目十六番地  
行 明治三十三年七月十九日訂正再版發行  
明治三十三年七月二十二日發行

文學社編輯所編纂

發行者 小林 義 則

發兌 文學社

印刷所 文學社工場

著作權登錄



大賣捌所 各府縣下特約書林

